

## 友和会の精神を再確認して・・・。

事務局長 池田 泉

今年度事務局長を仰せつかった時、前理事長の飯高京子氏より「日本友和会の歩み」—非戦平和と和解を求めて—（1926 A.D. 2000AD・2003年発行）を頂きました。

そこには（1ページ8行目から14行目）三代目の理事長・政池仁氏が書いた、「日本友和会（J・F・O・R）とは何か」から引用して理事長、武祐一郎氏が以下のように書いています。

「FORは1914年第一次世界大戦が始まった年の12月にイギリスで誕生し、それが世界に広がったもので、約90年の歴史を持つ運動です。その間、あらゆる暴力と一切の戦争に反対する旗印を鮮明にして歩み、さらに庶民の基本的人権を守る働きも行つてきました。聖戦も正義の戦争もない。と言ふ立場を貫いてきたのです。」と書かれていました。私は嬉しくなって読み進み（1ページ下段22行目～2ページ1行目）ました。『わたしたちは、和解の務めを与えた者なのです。現在の世界情勢、すなわち、イラク戦争、北朝鮮との問題、またパレスチナの泥沼的な紛争などを見つめる時に、人類に今、最も必要なのは「和解」の思想ではないか、「和解」の務めを実行する人たちなのではないか、と痛感します。あらゆる暴力と一切の戦争を否定して歩む者こそが、このつとめを果たせるのではないでしょか』と書かれています。それが書かれてから今年は15年目を迎えますが問題はなにも変わらない現実に打ちのめされ、つとめをどうしたら果たせるのだろうと考えま

す・・・。

日本友和会にとって世界の平和も重要なことがいつも問題なのは沖縄のことです。遠い地であることも災いして、すぐにも人身御供のように放置されてしまいました。地新設でその苦行を延長されようとしています。オスプレイが日本各地に配備されることで、本土の市民にもようやく人権を無視した日米地位協定が沖縄だけの問題ではなく、私たちの日本全体のあらゆる場面で問題であることに気がついて真剣に沖縄のことを考える市民の輪ができつあります。

この市民の動きに私たち友和会がどのように役割を発揮できるのか皆さんと一緒に考えたいと思います。最後になりましたが、日本国憲法が現政権の手で変えられようとしている事に触れないで終わることは出来ません。私たち友和会会員も安倍の条改憲に参加して多くの署名を集めています。それは今まで以上に大きな動きです。現在署名運動は全国で1500万筆を超えていますが、9月30日までさらに延長し目標の3000万人を目指しています。皆様もこの署名運動の意義を広め改憲を阻止したいと思います。そして8月の全国大会では「広島から問う、核廃絶と平和憲法」というテーマがあると書かれています。そうだ！世界のFORから「平和憲法するな！」ってどんどん発言して欲しいですね。これを実現するように理事会メンバーであることが楽しくなりそうです。

私たちFORの会員はまだ自分たちが戦争をしない、あらゆる暴力と一切の戦争に反対する旗印をただ掲げているだけの消極的な者ではなく、仲の悪い者を仲良くさせる。和解させるともがらの集まりなのだということを、この事務局長のお役を頂き、ほんの少し歴史を振り返り再確認しました。両親の想いをただ受け継いで会員となつたので、それはまさに感動であり誇らしい思いですが、私にそのような行動が出来るだろうかと不安もあります。皆様はいかがでしょうか？

2000年にはすでに世界に27カ国にFORがあると書かれています。そうだ！世界のFORから「平和憲法するな！」ってどんどん発言して欲しいですね。これを実現するように理事会メンバーであることが楽しくなりそうです。もし全国大会に集まれないならば、身

近な地域で会員同士何人か集まつてお茶を飲みながらおしゃべりするのもいかがでしょうか？ 友和誌に「自身の俳句や短歌、漫画や挿絵、昔の写真の募集もあります。戦跡や戦争博物館訪問記など、どうぞこの友和誌を会員の発言の場として、文字での交流の場としてもっともっと活かしてください。